

9 沿岸漁業重要資源調査(2) ソデイカの資源動態調査

担 当：太田武行(増殖技術室)

実施期間：平成5年度～(平成25年度予算額：沿岸漁業重要資源調査10,077千円うちソデイカに関する予算額223千円)

1) 目的

近年、本県の夏季～冬季の沿岸漁業を支える重要な資源となっているソデイカについては、その生態学的知見や資源学的知見は非常に少なかった。しかし、2004～06年度に鳥取県、兵庫県、近畿大学、九州大学、水産大学校、日本海区水産研究所との共同研究が実施され、本種の基礎生態に関する情報が収集された。本事業はこれまでに得られた情報と漁期前試験操業によりソデイカの漁況予測情報を発信した。

2) 方法

- ・鳥取県漁協賀露本所所属の組合員の漁船を2隻用船し、2014年8月18日に試験操業を実施・試験操業は、樽流しで行い、E丸(沖側)は36樽、B丸(岸側)は30樽を使用した。
- ・操業場所は、表1のとおりである。
- ・また試験船おしどりで、2013年8月12日に試験操業を実施

表1 2014年ソデイカ漁期前試験操業の操業位置と釣果

月日	使用漁船	漁具数(樽)	投入			回収				
			水深	緯度	経度	水深	緯度	経度		
8月18日	賀露所属B丸(岸側)	30	浅	130m	35° 41.2061	134° 11.0174	→	150m	35° 42.6377	134° 12.9492
			深	145m	35° 42.5093	134° 10.9924	→	215m	35° 43.8436	134° 11.8507
	賀露所属E丸(沖側)	36	浅	200m	35° 43.0581	134° 11.5300	→	225m	35° 44.9984	134° 11.1091
			深	240m	35° 45.0667	134° 11.3969	→	270m	35° 46.2556	34° 09.40967

3) 結果

- ・2014年の漁獲量・金額は、71トン、44百万円で2012年の175トン、68百万円から減少した。
- ・2014年の盛漁期の漁獲物組成は胴長32cm以上でモードの山が複数あり、漁期前半から複数の来遊群が加入したことが示唆された。
- ・ソデイカ漁期前試験操業では、釣獲はなかった。賀露地方卸売市場でのソデイカの初水揚げは8月25日と例年並の早さであった。

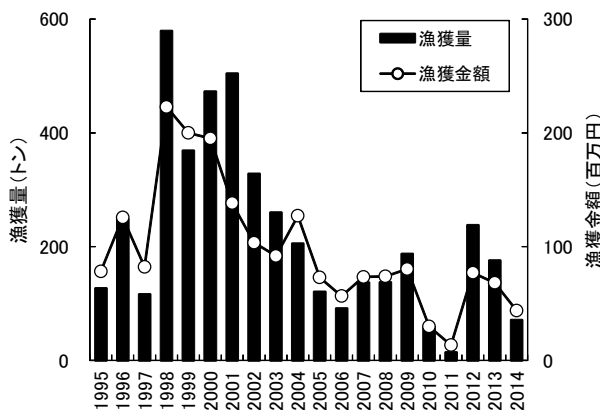


図1 鳥取県のソデイカの漁獲量と金額の推移

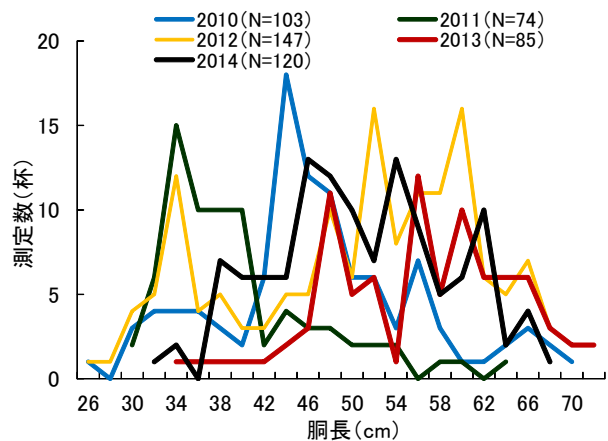


図2 賀露地方卸売市場における10月下旬から11月上旬のソデイカの胴長組成

4) 考察

今期の漁獲量は、図4のとおり215トンと予測をしたが、実績は71トンと少ない結果となった。2012年以降、海水温だけでは、漁況予測が困難となっている。その要因として、従来、対馬暖流が鳥取県鳥取市青谷町(長尾鼻沖)付近で接岸する蛇行が見られていたが、この3年は、かなり東側で蛇行し接岸したため、ソデイカは日本海に多数来遊したものの、鳥取沖で漁場形成されなかった(ソデイカ

の滞留が少なかった) ことが原因と考察された. なお, 来遊量が少ない年は, 盛漁期の漁獲組成において, モードの山の数が少ない傾向が見られるが, 2014年にはその傾向が見られなかったため, 2014年の不漁は, 漁場形成の有無に関係していると考えられた.

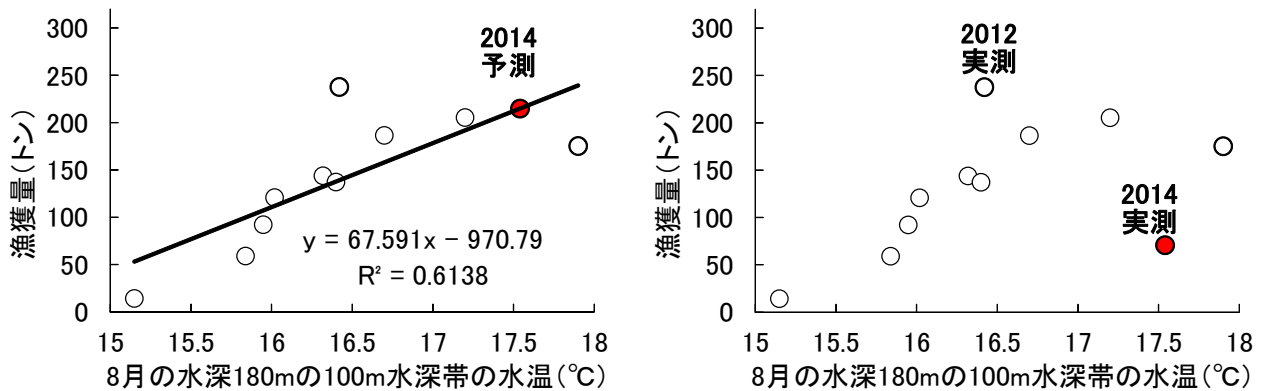


図4 鳥取県中部の8月の水深180m地点の深度100m水温と鳥取県のソデイカの漁獲量(左図:予測, 右図:実績)

5) 残された問題点及び課題

漁況予測はある程度の精度でできる状態にある. しかし, 漁場が沖合であることもあり, 漁況予測を行うことは, 沿岸漁業者の省エネ・省コスト型漁業への促進に必要な情報であり, 引き続き調査が必要である.